

新発田市教育委員会令和7年4月定例会 会議録

○ 議事日程

令和7年4月2日（水曜日） 午前9時30分 開 会
豊浦庁舎 2階 教育委員会会議室

日程第1 会議録署名委員の指名について

日程第2 前回定例会及び臨時会会議録の承認について

日程第3 教育長職務報告

日程第4 その他

(1) 令和7年新発田市議会2月定例会報告

(2) 令和7年度歴史図書館蔵書点検について

○ 会議に付した事件

議事日程に同じ

○ 出席者

工 藤 ひとし 教育長
石 坂 均 委 員（教育長職務代理者）
笠 原 恭 子 委 員
村 川 孝 子 委 員

○ 説明のため出席した者

教育次長 橋 本 隆 志
学校教育課長 彌源治 仁 伺
学校教育課教育センター長
阿 部 英 幸
文化行政課長 宮 崎 由 香
中央図書館長 庭 山 恵
生涯学習課長 土 田 道 代
青少年健全育成センター所長
古 田 潤 子

○ 書 記

教育総務課長補佐 阿 部 成 美
教育総務課教育総務係長
小 島 貴 志

○ 議 事

○工藤教育長

ただいまから、教育委員会令和7年4月定例会を開会いたします。

年度当初の定例会でありますので、私から一言御挨拶申し上げます。

新しい令和7年度が始まりました。メンバーも一新され、いよいよ新しいスタートになります。今年度もよろしくお願ひいたします。

先行きが見えない世の中ではありますが、災害も含め様々な場面において時代が変わってきていることを私も感じます。ただ、昔から言われているように、不易流行という言葉があります。確かに時代の流れが激しいですけれども、変えてはいけないもの、不易の部分をもう一度見つめ直す機会が大事になってくるのではないかと考えています。ICT技術の発展があり、今まで経験したことのないような時代に入っています。そして、人々の考え方も、もっと簡単に言うと家庭の考え方や教育に対する考え方も変わってきているように思いますが、根本のところは大して変わってはいないと私は思っていて、人を大事にするところや一人一人の人生の基盤を作るのは、幼稚園、保育園を含む小中学校の教育なのだと私は思っています。そこをやっぴり大事にして、生まれてきて自分の人生を歩む中で、その基盤作りをしっかりともう一度目を通してやっていかないと、やはり駄目なのではないかなと思っています。教育委員会におかれましては、教育委員の皆様、事務局の皆さんもぜひ、子どもに対する教育についての真摯な御意見をいただければと思っています。また、教育というのは小中学校で終わりではなく、市民の皆さんにとっても大事な分野だと思いますので、皆さんの御経験、そして知識、見識を動員して、御指摘いただければと思います。

今、時代の流れと言いましたけれども、新発田市は新潟市、上越市、長岡市に次ぐ市ということで人口も多く、消滅都市から脱出できたものの、人数が減ってきています。そのことにより、市の組織体制も変わってまいりました。後で紹介がありますが、教育次長が課長を兼務するというようなことになりました。それを担う橋本次長さんは大変ですけれども、そのようにして時代が変わってきて、今まであるべきものだったこと、当然だと思ったことは変わってくるという時代であります。教育委員会のそれぞれの部署の皆さん、課長の皆さんも本当に大変な時代だと思いますが、ぜひそれを乗り越えていただきたいと思います。乗り越えるために何が必要かと言ったら、やっぱり私は教育だと思います。人間の群れという力を使って、お互い支え合って助け合っていくことによって、困難なものを乗り越えることができると思うため、私の分野はここまでというのりしろをしないことが、組織を崩していくことになると思います。私は学校現場で学んできました。お互い手を差し伸べながら連携をしながら、報連相を大事にしていかなければいけないと思います。私はそこに確認が必要だと思っています。報連相は結構どこでもやっているのですけれども、最後に確認していくことまでしていかないと、どうも今の時代は流されてしまいがちなので、ぜひそのところをお願いしたいと思います。どんな困難も前向きに明るくやっていけば、仕事が楽しくなると私は思っています。私の経験で、学校現場で大変な課題があったのですが、最終的にはそこに携わる職員と仲良くお互い意見を言い合いながら、風通しの良い中で、そしてお互い切磋琢磨するだけでなく、支え合っていたことが、最終的には困難な学校が明るい学校に変わったことを身をもって経験しておりますので、ぜひこれからの時代、大変なことが多いと思いますけれども、

お互い協力し合い、支え合い、謙虚な気持ち、感謝の気持ちをもちながら取り組んでいただけたらと思いますので、今後とも委員の皆様をはじめ職員の皆様、御協力をお願いいたします。

長くなってしまいましたけど、今年1年、子ども達のために、そして教育のために、市長が行政では市民の財産と命を守ることが行政の仕事であるというふうにおっしゃいました。私は、教育は子どもたちの命と子ども達の学ぶ権利を守ることだと思っておりますので、御協力をよろしく申し上げます。

○工藤教育長

それでは次に、村川委員におかれましては、議会の同意をいただき再任されました。そして昨日、二階堂市長より辞令をいただきましたので、年度始めでありますので、村川委員から一言御挨拶をお願いいたします。

○村川委員

村川孝子です。またよろしくをお願いいたします。小池委員の後の1年、そしてその後の4年、そして今年はこれから始まるということで大変お世話になります。教育委員に着任当初はコロナ禍でしたので、教育委員会の皆様が、GIGAスクール等、早急に子ども達の健康に対する対応に力を尽くされていたのを目の当たりにして、今ここにおります。今ほどの教育長さんのお話の中で、教育はいわゆる未来を作るもの、つまり新発田の未来を新発田の教育が作っていくのだと思いながら過ごしてまいりましたが、これからは新発田の教育に関われる幸せを感じております。どうぞよろしくをお願いいたします。

○工藤教育長

大変ありがとうございました。引き続き新発田市の教育の充実ためにご尽力を賜りますことをお願いいたします。それでは4月の人事異動によりまして事務職員にも異動がございました。本日初めて会議に出席する職員もおりますので、委員の皆様からも御挨拶をいただきたいと存じます。初めに、石坂教育長職務代理者へお願いいたします。

○石坂教育長職務代理者

おはようございます。2年目になりました石坂均と申します。退職して、もう5年以上経つのですけれども、ちょうど私が退職した後からの教育を取り囲む環境がコロナの関係もあると思うのですが、ものすごく大きく変化しているなというふうに感じております。学校現場はもちろん、行政の皆様がいろいろ激しく変化をする教育の環境に一生懸命対応していることを、逆に離れたからこそよく分かるのかなと思っております。昨年1年間、行政側からの教育を少し見聞きする機会がありまして、非常に良い勉強になりました。

今年もまた微力でありますけれども、いろいろ協力できる点、協力していきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

○工藤教育長

ありがとうございました。次に、笠原委員、お願いいたします。

○笠原委員

おはようございます。笠原恭子です。よろしくお願いいいたします。この春高校1年生、大学3年生の子どもがおります。教育委員は3期目で、3年目になります。大変長くお世話になっておりますけれども、保護者の代表としてどんなふう子ども達と保護者が考えているのかを、私もママ友のネットワークを使いまして、いろいろとこの会議の中でまた皆さんにお伝えできたらなというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいいたします。

○工藤教育長

ありがとうございました。皆様からお話をいただきまして大変感謝申し上げます。なお山崎委員は本日都合により欠席されておりますので、来月改めて御挨拶いただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

次に、橋本教育次長から、今年度の事務局員職員の紹介をお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○橋本教育次長

それでは私の方から紹介させていただきます。冒頭教育長の御挨拶にありましたとおり、教育次長を兼ねて教育総務課長ということで、今年度2人分働かせていただきたいと思っております。ちょっと物理的に無理があるかもしれませんが、そこは協力体制といえますか、群で頑張っていきたいと思っております。

それでは、教育委員会事務局を紹介させていただきます。

【各職員紹介 省略】

以上、事務局一丸となって、新発田市の教育の充実に邁進してまいりたいと思っております。今年度もよろしくお願いいたします。

○工藤教育長

大変ありがとうございました。今年度はこのメンバーで進めてまいりたいと思っておりますので皆様くれぐれもよろしくお願いいたします。

それでは、会議に入りたいと思っております。

はじめに、「日程第1 会議録署名委員の指名について」であります。村川委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

次に、「日程第2 前回定例会及び臨時会会議録の承認について」お諮りいたします。既に送付してあります会議録について、御質問等ございましたらよろしくお願いいたします。

○工藤教育長

ないようですので、承認の方の挙手をお願いいたします。

○工藤教育長

挙手全員でありますので、3月定例会及び3月臨時会の会議録は承認されました。

次に、「日程第3 教育長職務報告」を行います。職務報告については、既に送付してあります「教育長職務報告（令和7年3月1日～令和7年3月31日分）」及び「令和6年度教育委員会主な事務事業進捗状況（第4四半期）」のとおり報告いたします。
教育委員の皆様から何か御質問等がございましたらお願いいたします。

○工藤教育長

ないようでありますので、「教育長職務報告」及び「令和6年度教育委員会主な事務事業進捗状況（第4四半期）」につきまして承認の方の挙手をお願いいたします。

○工藤教育長

挙手全員でありますので、「教育長職務報告」及び「令和6年度教育委員会主な事務事業進捗状況（第4四半期）」は承認されました。

続きまして、本日は議事がございませんでしたので、「日程第4 その他」に入りたいと思います。

はじめに、（1）令和7年新発田市議会2月定例会の報告につきまして、橋本教育次長から説明をお願いしたいと思います。

○橋本教育次長

私の方から説明申し上げます。資料につきましては事前送付させていただいた、その他資料になります。表題が令和7年新発田市議会2月定例会報告になります。市政に対する一般質問と新年度に向けた市議会各会派からの代表質問、また教育委員会の補正予算、条例改正等の社会文教常任委員会の報告及び令和7年度当初予算についての特別委員会の報告となっております。議会の会期は2月26日から3月26日までの約1ヶ月間ということで審議をいただき、全て議決をいただいたところであり、表題めくっていただきますと一般質問通告一覧表1ページ目になります。この度は11名の議員から一般質問が行われ、内6名から教育委員会に関する質問がございました。めくっていただきますと、議会各会派代表質問の一覧表があります。会派が5会派、内4つの会派から教育委員会に関する質問をいただいたところであり、3ページ目以降が一般質問の質疑応答の状況になりますが、教育委員会の前に市長の方に質問がありましたので、少し補足説明をさせていただきます。一番上の板倉久徳議員の質問になりますが、歴史資料館の整備に向けての質問がございました。市長の方からは、歴史資料館は教育委員会が主管であり、詳細については教育委員会で検討してもらおうと、ただ市長として城下町新発田にふさわしいという評価をいただけるような資料館を整備していきたいと思っていますとの答弁がなされました。スケジュールについては、今現在、旧県立新発田病院跡地に新発田市道、道路のつけかえ工事をやっております。その道路の完成、また今現在事業を開始しました土橋門整備の完成目標が令和10年度に設定しておりますので、その後、歴史資料館の整備に着手していきたいというスケジュール感を持っているとの答弁が市長からありました。土橋門の整備また歴史資料館の整備に向けて、教育委員会では、各種事業を進めているところであります。続きまして一般質問の報告は3ページ目以降になりますが、新発田城の周辺の環境整備ということで、桜の樹木の質問をいただきました。石垣の上に桜が植栽されておりますが、老木になってきています。今後どうするのか管理の考え方について教育長の方から答弁を申し上げました。平成29年に

石垣の上の桜の管理計画というのを教育委員会で策定しておりますので、基本的には現状維持、木をなるべく長く咲かせていきたいと考えていると、新たに植栽は予定しておらず、石垣の桜についてはいじらないでいきたいという答弁であります。

次に、2番目の御質問であります。長島徹議員であります。昨年12月にも同様の御質問がありました。夜間中学の設置について、新発田市で検討を進めてほしいという趣旨の質問でありましたが、昨年12月と同様に、教育委員会としては、国が示す都道府県単位、あるいは政令市の単位での設置を進めるべきであるという内容の答弁をしたところであります。なお、12月に新潟市教育委員会の方で、新年度新たに夜間中学の設置に向けた体制を整えるとの報道発表がありましたので、そちらの方を注視し、新発田市でも連携をしていきたいという答弁をさせていただきました。また、4月8日火曜日、新発田駅前複合施設の研修室を会場に、自主夜間中学校を市内の有志の方が取られるという情報をいただいております。詳細についてはこれからスタートということですので、教育委員会としましても、情報収集等行ってまいりたいと思っております。あくまでも自主夜間中学ということで、有志の方が活動をされるとの情報でありました。

次に、4番目の中村こう議員ですが、新発田市社会福祉協議会との引きこもりや不登校対策の連携についての質問がありましたが、定期的に情報交換を行いつつ、繋ぎ合える部分があれば、不登校対策、引きこもり対策に結びつけている状況だということであり。こちらの方は以上であります。

7番目の惣山かすみ議員ですが、昨年度も質問をいただきましたが、タブレットの関係であります。小中学校から出される宿題等を全部紙にすべきでないかという御質問であります。教育委員会としては紙が有効な部分、またタブレットを活用した方が有効な部分、それぞれの科目、単元、児童生徒の状況、学校の状況に合わせてより良いものを取り入れていきたいという答弁をしたところであります。規制はしないということです。タブレット端末で教員がメンタル不調を起こしていないかとの質問ありましたが、タブレットが原因で不調という報告はないという答弁をいたしました。また、学校給食にオーガニック食材を活用すべきであるという質問をいただきました。これも昨年質問があったのですけれども、現状としては新発田市内で学校給食に提供できるだけの量が確保できませんので、まだその時期ではないということです。生産しているのは米が主ですけれども、基本的に農家所得の向上のために輸出という販路を確保しておりますので、産業振興サイドは、学校給食よりもまずは輸出という体制をとっております。今後多く流通して、給食にも十分供給できる量が確保され、また価格面でも折り合いがつけば、活用を検討していきたいなと思っております。ただ、学校給食の無償化が令和8年度からいよいよ始まる見込みであります。こちらの方はまだ詳細の情報は何もありません。また情報が入り次第、教育委員会の方にも報告をし、対応について協議をしてまいりたいと思っております。

次に、10番の高橋芳子議員であります。学校給食費の無償化、あるいは値上げについての支援の質問をいただきました。教育委員会にも報告済みであります。この4月から対前年2%の学校給食単価値上げを決定しております。ただ、令和7年度につきましてはこの2%分の値上げを国の交付金を活用して支援を行います。また、これ以降国の補助金がなくなれば、保護者負担をいただくというのが基本的な考えであります。先ほど申し上げましたとおり、無償化の動きがありますので、この辺はまだ今後整理が必

要になってくる部分であります。議員から財政調整基金を使って給食費に充ててはどうかとの御質問をいただきましたが、市の財政調整基金は災害時等に備えるための基金でありますので、そちらを活用する考えはないという答弁をしたところであります。

最後に11番の加藤和雄議員ですが、今年が戦後80年ということで節目の年になるが、児童生徒への平和に対する教育の考え方や特に何か新たな取組があるかという趣旨の質問でありました。戦後80年ということは伝えていきますが、新規事業はございません。従来継続しております広島への中学生の派遣、あるいは長岡への派遣を行い、それらをそれぞれの学校で子どもの言葉や感性で伝えていくことを継続するという答弁をしたところであります。一般質問については以上であります。

次に、資料16ページ以降が各会派からの代表質問になります。令和会からの質問は、頑張って教育の充実に向けて取組んでほしいという質問でありました。

次に16ページ、共道しばたの三母議員です。教職員の働き方改革、今回の質問はカリキュラムオーバーロードにならないようにという御心配をいただいたところでありますが、現在新発田市の小・中学校は先生方、あるいは子ども達に過度な負担にならないように、教育課程を随時見直し、検討しながらやっていると、過剰な負担にはなっていないという答弁をしたところであります。

次に19ページ、公明党の石山議員であります。小中学校GIGAスクールとして、現在7000数百台のタブレットを導入しました。一斉導入しましたので、耐用年数が約5年程度と言われております。丁度更新の時期が今きておりますので、令和8年度から更新をする方向で準備を進めております。更新すると、今使っている機器は処分するのかがどうなるのかという質問だったのですが、活用できるものはリサイクルしていくと、廃棄しなければならないものは、個人情報の漏洩がないよう資源リサイクル法に基づいた処理を進めたいという答弁をしたところであります。

最後は、21ページのひらく会になります。こちらの方からは、冒頭説明いたしました歴史資料館の整備の関係と、学校給食無償化に向けた関係等々を質問いただきました。内容については資料に記載しております。他の質問と重複している部分がありますので詳細説明は省略させていただきます。

資料の24ページ以降は、常任委員会における質疑の状況であります。前回、専決処分の実施について承認いただきました補正予算案全て可決をされましたし、条例改正の部分は学校給食川東共同調理場を今年度1学期末で閉鎖という予定であります。こちらについて、社会文教常任委員会において質問がありましたが、承認されました。

32ページ以降は、令和7年度の一般会計特別審査の状況であります。少し触れさせていただきたいのですが、新発田中央高等学校について、長島委員から質問がありました。1人当たり1万円の補助金を現在交付しており、令和7年度も予算化しております。ただ国の政策方針で、高校授業料無償化というのも打ち出されておりますので、この補助金については、国の動向を見ながら、必要に応じて整理していきたいと考えております。詳細は資料に記載のとおりでございます。

○工藤教育長

説明が終わりました。委員の皆様から何か御質問がございましたらお願いいたします。

○笠原委員

資料3 7ページのジュニア展の会場に関する意見についてですが、子ども達が描いたものを見に行くのに入館料を取るのはいかがなものか、合わせると3回にわたって絵を展示しているがどうにかならないものか、また、見に来る側の立場も考えて事業計画をしてもらいたいというふうなことが書かれているのですが、実はうちの子どものこのジュニア展に作品を提出させていただいたのですけれども、こんなに何回も展示をしてももらったことについては子どもや親にとっては大変光栄なことでありまして、評価をしてくださった結果、いろいろなところで展示していただいて、いろんな方に見ていただいたことで自分の絵に自信をもつことができ、ものすごく子どもの自己肯定感が上がると思うのです。そのため、子ども達が描いたもので入館料を取るのはいかがなものかという文章を見た時に、子ども達の絵はものすごくパワーがあるから、むしろ入館料を払ってでも見たい人もいるのだらうなと思いました。一保護者の意見としてということですが、見に来る側の立場というのは、どのような立場を考えた御意見なのかなど、少し腑に落ちないなと思いました。文面のみではどのような感情でどの方向を向いた御意見なのかちょっとわからないのですが、ただ子ども達と保護者に関しましては、本当にこんなにたくさん展示していただいて、すごく光栄だったという言葉をお伝えしたいと思います。

○工藤教育長

ありがとうございました。 それについて宮崎文化行政課長いかがですか。

○宮崎文化行政課長

はい、ありがとうございます。 文面だけでは伝わりにくく、御心配をおかけして大変申し訳ございません。経緯といたしましては、元々市美術展覧会は子どもだけではなく、大人も含む市民の方も多く展示していただいており、カルチャーセンターで10月に開催しているところに、以前は一緒に幼稚園、保育園、小中学校の推薦された作品だけを展示していました。それにつきましては、学校の先生方からの推薦ということで、なかなか子ども達の作品を多く見るということができないということもありまして、ぜひジュニア展に子ども達が書いた作品を全部展示したいと、また、今ほど自己肯定感という話がありましたけれども、文化団体連合会の会長からも、ぜひ公募展にしまして、賞を設けることで、子ども達の頑張りを期待して、優秀作品については表彰し、次世代の市展に出していただけるような子ども達の技術の育成に繋がりたいということで、数年前から公募展に変更した経緯があります。公募展にしまして、全員の作品を飾るということで、市展の会場のカルチャーセンターではちょっと場所が足りないため、11月に開催する学習センターが主催の市収蔵美術展の方で、作品展の併設をしまして、ジュニアの方の500点以上の全作品を展示していただいています。それにつきましては、もちろん無料で御覧いただけるというのが今の現状でございます。その中で私どもの周知が至らなかったということなんですけれども、無料でジュニア展の作品を見られることを承知をされていなかった市民の方が、ジュニア展の作品がいきなり蔵春閣という有料のところで展示するとなると、一般的に他の市町村では県のジュニア展は無料で見られる所が多いことから、ジュニア展が有料の会場で開催されているじゃないかと、子どもの絵を見るのに有料だと負担が大きいというところで御心配をいただいたというような経緯

がございます。この度、蔵春閣でジュニア展の受賞作品だけを飾らせていただきましたが、その意味は二点あります。一点目は、作品受賞者本人である子ども達や保護者の方から、あのような会場で作品が飾られて光栄ですと非常に好評を得ています。先ほど笠原委員がおっしゃられたように自己肯定感が上がり、次世代の美術を担っていただく子どもになっていただきたいということです。二点目は、蔵春閣というのは市内の人というよりも、県外ですとか市外の方が多くいらっしゃいますので、そういった方たちに新発田の子ども達の芸術がこれだけすごいものだということを見ていただきたいということです。そういう趣旨で、蔵春閣を会場に開催させていただいたということがございます。同じ展示なんですけれども、趣旨が違うため、趣旨に応じた会場で展示をしたのですが、入場料という観点から、御心配をいただいたという経緯がございましたが、この点については本当に保護者の皆様に好評いただいておりますし、外からも好評のお話をいただいておりますので非常にありがたく思っております。以上です。

○工藤教育長

ありがとうございました。子ども達の力を出すためにいろんな工夫をしていただいたんですね。今までは学校で提出する作品を選出し、ジュニア展に出していました。つまり、選出されなかった作品はどこにも飾られていないんです。でも、文化行政課の方では、全ての子どもの絵を飾ってあげたいということで企画をしてくださいました。本当に多くの方に見に来ていただいて、その中でも特に優秀作品を蔵春閣やあるいは市の1階に掲示させていただいたのですけれども、私も観に行かせていただきましたけど、生涯学習センターに飾った時と、蔵春閣で飾った時では同じ絵でも見え方が違うんです。なぜ違うのかと言ったら、その絵をきちんと一つのキャンバスに見立てて、これは文化芸術の皆さんが工夫して作られた額に入れ、蔵春閣の他の調度品に負けないぐらいの形にして飾るんですね。そうすると、調度品と額絵が本当にマッチして、見応えのあるものになるんです。子どもの絵なのかなと思うほど素晴らしい迫力があります。絵というのは、紙で1枚あるものよりも、額に収められていると素晴らしいんですよ。絵が引き立つんです。本当に子どもたちの絵は可能性があり、素晴らしいなということを改めて多くの人に見ていただきたいというのもあったのですが、中には入場料を取るとはいかなものかという御意見もあったことから、今度からは周知に力を入れていきたいということを課長がお話しされました。笠原委員、御意見を出していただきありがとうございました。他に何かございましたらお願いいたします。

○村川委員

カリキュラムオーバーロードのお話が出ていたので、そこでちょっとお話をお聞きしたいなと思います。私も現場にいた頃に学習指導要領・標準授業時数をみると、年間35週で計画すると調整が必要であったり、高学年になると一日の授業が6時間が普通であったりと、そういう意味でのオーバー感を感じていました。新しい学習指導要領になり、授業の形が協働的であるとか、個別最適であるとか、対話的な学びの実現という中で、このオーバーロードという状況は、ますます現場で生じているのではないかという危惧はあったのです。答弁の中で、学校それぞれでカリキュラムマネジメントをしっかりと取り組んでいて、先生方にとって負担感を感じる状況ではないとのお話から、少し安心したところではあります。新発田市が特色ある教育活動をこれからも進め、子どもの主

体性を引き出し個別化を図っていけば、一つ一つは時間がかかると思うんです。これは学習指導要領がスタートした時も話題になっていましたが、時間がかかるけれども、子ども達の力となって、資質、能力になっていった時には大変な力になり、そこに要した時間的な問題は解消されていくという話も出ていました。新年度メンバーも変わり、新しい学校に行って新しく取組む方も出てくると思うんです。どのような力がつくかとか、どういう教科とクロスするのか等、しっかり学校ごとに話を詰めて進めてほしいと思います。担当者だけで考えるのではなくて、若い先生も含めて全職員でカリキュラムマネジメントに取り組んでいく必要があると感じています。よろしくお願いします。

○工藤教育長

ありがとうございました。ほかの委員の皆様、何かございましたらお願いいたします。

○石坂教育長職務代理者

今に関連して、昨日か一昨日の朝日新聞もこの問題を結構大きく取り上げていました。丁度この資料を見ていた時なので、合わせてさっと目を通したんですが、やっぱり以前は未修やこの時数をこなさなければならないということが問題になって大きく取り上げられたこともあり、それもあって学校ではとにかくちょっと余裕を持って時数を組むというふうな流れになっていました。そこへまたコロナやインフルエンザ等で、2月3月に予期せず1週間、あるいは10日間授業ができないというような状況が頻繁に生まれたりしたこともあって、どうしても時数に余裕を持たせたい。そのために、やはりちょっと時数、週の時数を増やすというような流れになってきていたのではないかなと思います。そこに反対の動きが出てきて、学校現場は非常に大変になっているのかなというのは感じています。各学校でのカリキュラムを工夫しながら様々な取組を行っていると思いますが、教科に組み込むとか、行事に組み込むとか、そういうことは非常に大事なことで、オーバーロードにならない一番の手段ではないかと思いますので、答弁にありますように、ぜひとも学校でも過度な負担にならないような形で最大限有効な教育を生かしていくようなことを学校にも勧めていただければと思います。よろしくお願いします。

○工藤教育長

はい、ありがとうございました。学校教育課の方から何かありますか。

○彌源治学校教育課長

お話にあったように、かつて本当に授業時間数をしっかりと確保するということがかなり先行した時期を私も経験しております。教務主任だった時代がありますので、授業時間数をいかに確保するのかということに苦心した時期もありますが、今はいたずらに授業時間数だけを増やすのではなく、その中でより効果的に、カリキュラムマネジメントを行いながら、教育課程を編成していこうとする考えがしっかり浸透してきているところだと思います。学校により地域素材や人材も違いますし、課題も違いますので、各学校ごとに全校体制で職員が教育課程を見直していくという指摘もそのとおりでと思います。学校教育課としてもしっかりとそのことは現場に伝えてまいりたいと思いますので、また引き続き御指導いただきたいと思います。

○工藤教育長

ほかの委員の皆様、何かございましたらお願いいたします。

それではないようですので、説明のとおり御了承願いたいと思います。大変貴重な御意見をいただきました。ありがとうございました。

○工藤教育長

それでは、その他の方に移りたいと思います。

(2) 令和7年度歴史図書館蔵書点検につきまして、庭山中央図書館長から説明をお願いいたします。

○庭山中央図書館長

私の方から令和7年度歴史図書館蔵書点検について御説明いたします。資料を御覧ください。歴史図書館では、中央図書館と同様に、年に一度、館内の所蔵資料について点検を行っております。今年度は6月18日水曜日から6月29日日曜日までの12日間、図書資料、視聴覚資料約4万2000点と、郷土資料第2集の1996点の所在確認を行いたいと考えております。併せまして、図書資料等の埃の除去や古文書が収蔵されております収蔵庫や閉架書庫の清掃も行う予定です。市民及び利用者の皆様には、来館時の案内を始め、ホームページを通して周知してまいります。説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○工藤教育長

この件につきまして、皆様の方から何か御質問ございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。

それでは次に移ります。今後の日程についてであります。

教育委員会、今後の日程・予定につきまして、橋本教育次長から説明をお願いしたいと思います。

○橋本教育次長

今後の日程予定でございますが、3月の定例教育委員会でお示した日程と変更はございません。次回5月4日が定例教育委員会の予定となっておりますのでよろしくお願いいたします。

○工藤教育長

今後の日程について、何か御質問ございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。なければ今後の予定について説明のとおりであります。大変忙しい1年が始まりますのでよろしくお願いいたします。それでは、他に事務局の方から何か報告・連絡がございましたらお願いいたします。

○宮崎文化行政課長

それでは、今日配布させていただきました資料の中の報道関係資料についてです。この資料は、明日リリースされるものなので3日の日付になっておりますけれども、ももクロがこの春当市へ来るのに合わせまして、新発田城の方でいくつか企画を用意させて

いただきましたのでお知らせいたします。

一つ目は、例年は新発田の桜の時期に合わせまして、白色でライトアップしてるのですけれども、ももクロのメンバーの4色で、左からですねピンク、赤、黄色、紫ということで、春まつりの会期中である28日からライトアップしています。若い方も写真を撮っていただいて、Xなどに今上がって御覧になられた方もいらっしゃるかもしれませんのですけれども、実行委員会の方では1.6万回の閲覧があり、バズりという感じになっております。

もう一つは、新発田城の推し城総選挙ということで、今回初めて三階櫓、旧二の丸隅櫓、表門、辰巳櫓ありますが、色を4色にライトアップしましたので、それを見ていただいた方に、どれが一番好きだったかというのを単純に投票していただいて、今後の新発田城のPRに活用したいため、WEB上で投票を受け付けることにしております。

2枚目が、26日で終了したのですが、新発田城でももクロのサイン瓦を特別公開するという事です。瓦の出土品展をイクネスでさせていただき、そこにももクロのお二方のサイン瓦を展示しておりましたが、今度、新発田城辰巳櫓にも、ももクロのファンもいらっしゃるということでサイン瓦を展示しております。また、ももクロのメンバーお二方が来た時の写真を撮影した場所はここですよという形で、フォトスポットにしまして、聖地巡礼のような形でお越しいただきたいという企画をしております。

最後に、新発田城の夜の特別公開を開催いたします。ももクロ春の一大事につきましては4月12日、13日の土日開催なんですけど、前日入りしていただいた方に前夜祭としまして、11日の夜、夜桜を見にいらっしゃる方もございますので、通常5時で閉館する新発田城の表門を開錠いたします。8時半まで開場しまして、辰巳櫓の方までお越しいただき、先ほどのサイン瓦も見れる形で夜の特別公開を予定しています。以上、三つ企画をさせていただきました。

続いて、真珠まりこ絵本原画展ということで、露谷虹児記念館の方に、ももクロのサインが置いてあるのですが、それを見に来られる方もいらっしゃるということで、併せて露谷虹児記念館の方で真珠まりこさんの日本の原画展をするというお知らせでした。以上です。

○工藤教育長

ありがとうございました。人の流れが新発田に来ている感じがします。市長さんがおっしゃったのですけれども、紫雲寺地区の統合の時、紫雲寺小学校の校歌と校章を作成していただいた笠原賢人さんが「もう、しんはったって、よばないで」という新発田市のPRカードゲームを作りました。確か友達からお前の住んでいるところはなんて読むのだと言われたぐらい、しばたと読めない人がいっぱいいらっしゃって、それを逆手に取った笠原賢人さんが考案し、話題になったんですね。そして今年、この新発田という名前が本当に伝わるチャンスかなと思います。今の流行の、まさにSNSや若い人たちの聖地巡礼に合わせてこの新発田の方を知っていただく、そして十一人の賊軍にも描かれて、まさに若い人たちにも知れ渡るチャンスかなという、何か流れが去年からきている感じがします。今年のあやめ祭りの全国大会が6月に新発田で行われるということですが、本当にそういう渦がやはりあるんだなと。よく先輩が幸運の女神は前髪だから、掴み損ねるともう一生来ないぞと言われたことがあったんですけど、そういう感じが今しています。いろいろな協力を教育委員会の方でも市を挙げて皆さんやっていただいて、この流れを大事にしたいと

思います。こういうことをすると必ず反発する人もいらっしゃるんですが、私はもうそういう時代じゃないと思います。新発田に住んでる子ども達が俺たちの新発田ってすごいんじゃないかと、歴史があつて、こんな素敵なところに俺たち住んでるんだという、自己有用感も含めた自己肯定感を上げるチャンスなんじゃないかと思うので、前向きにPRする機会じゃないかなと思います。俺たちの新発田はこんなふうに全国に認められてるなどか知れ渡っているのだなど、彼らが大学とか地元を離れた時に、あの新発田かって言われた時と、なんて読むのかと言われた時とでは気持ちが違うような気がしますので、ぜひこの機会を生かしていただければなということで、市の職員皆さん一生懸命頑張っていると思います。教育委員会の皆様にもぜひ機会がありましたら、いろんなどころに足を運んでいただければと思います。よろしく願いいたします。それでは他に何かございましたらお願いします。

○工藤教育長

他に、せっかくの機会ですので教育委員の皆様から何かございましたら、よろしいでしょうか。

それでは以上で、教育委員会令和7年4月定例会を閉会いたします。ありがとうございました。

午前10時33分 閉 会

令和7年4月2日

新発田市教育委員会教育長

委 員